



# 萌木

## 3月号



調布市立第七中学校

校長 山田 勝

令和6年3月13日発行

～自尊・立志・感動～

## 計画を立てる力

校長 山田 勝

3月も半ばを迎え、学校もまとめの時期に入っています。生徒たちの一番の関心は、学年末考査よりも4月からの、進級・進学してからの生活になってきたようです。

クラス替えや進学してからの新しい環境に期待を持っている生徒も多くいますが、4月からは、何に向けてこのように取り組む、といった目標を持ち、計画をしっかり立てることが、生徒一人ひとりが自分を成長させることにつながると思います。

その計画を自分自身の成長に向けた具体的なものになるように立てるためにも、4月からの自らの状況をしっかり把握して、情報を精査しておくことが大切です。高校に入学したからといって自動的に成長していくわけではありません。3年生に進級したからといって、受験生だと思っただけでは志望校も決められないし学力も身に付きません。

進学・進級して、自分は何を目標に何をどのように頑張っって1年後2年後にどんな自分に成長したいかを思い描き、目標を定めなければ、生物学的な成長をするだけとなってしまいます。

自分の目標を達成するためには、計画を立てることが重要になってきます。計画を立てる力を育てるためにも、一日の予定や一週間の予定、自宅学習の時間など日ごろから意識して生活できると計画性が育つと思います。

学校でも日ごろから生徒たちに様々な計画を立てることを求め取り組ませています。生活の基盤となる家庭生活の中でも計画を立てる力・先を見通す力を育てる場面を増やしていけることが有効ではないでしょうか。

計画を立てる力は、学校生活の中だけでなく私たちが生きていくうえでとても重要な力なのだと改めて感じました。

## 今年度を振り返って

この1年間、保護者の皆様におかれましては第七中学校の教育活動につきましてご理解・ご協力をいただきありがとうございました。

感染対策が5類になり、以前の教育活動と同様の教育活動に取り組める環境に近づいていますが、コロナ禍の活動も取り入れ精査して活動を進めてきた1年でした。

そのような状況の中でも、生徒たちはたくましく育ってくれています。学ぶ機会にどん欲に、1年・はしうちの移動教室、2年校外学習や3年修学旅行、体育祭・合唱コンクールなどの取り組みでも、コロナ禍の中とも以前のものとも違う、現在に応じた活動に取り組み、生徒たちはその活動の中で成長を実感し、また私たちに示してくれました。学校としても、コロナ禍を経た今、仲間・友人との距離感や安心して学習に取り組むことができる場としての心の居場所の捉え方など改善していく課題も見えてきており、学校としても意識を持って取り組んでいます。

今後とも、保護者の皆様と、共に生徒と向き合い、生徒が各自の夢や目標を達成することを見守り助けたいと思います。